

# 新規採用・削除医薬品等通知

## 新規採用医薬品通知

(薬品名)	ハルロピテープ 8mg・24mg・32mg	劇	市販後調査:2019年12月~2020年6月
(英名)	Ropinirole Hydrochloride		
(規格・含有量)	1枚中ロピニロール塩酸塩 8mg・24mg・32mg		
(一般名)	ロピニロール塩酸塩		
(メーカー名)	協和キリン株式会社		
【薬価収載日】	2019年11月		
【薬価】	8mg;404.90円 24mg;801.50円 32mg;958.40円		
【薬効コード】	871169		
【薬効分類名】	経皮吸収型 ドパミン作動性パーキンソン病治療剤		
効能・効果	パーキンソン病		
用法・用量	通常、成人にはロピニロール塩酸塩として1日1回8mgから始め、以後経過を観察しながら、必要に応じて1週間以上の間隔で、1日量として8mgずつ増量する。いずれの投与量の場合も1日1回、胸部、腹部、側腹部、大部又は上腕部のいずれかの皮膚に貼付し、24時間毎に貼り替える。なお、年齢、症状により適宜増減するが、ロピニロール塩酸塩として1日量64mgを超えないこととする。		
禁忌	1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2 妊婦又は妊娠している可能性のある女性		
相互作用	<b>本剤作用減弱</b> ドパミン拮抗剤;抗精神病薬、メクロプラミド、スルピリド等 <b>本剤作用増強</b> ・CYP1A2阻害作用を有する薬剤;シプロキサシ、フルボキサミン等 ・エストロゲン含有製剤		
副作用	<b>重大な副作用</b> 突発的睡眠、極度の傾眠・幻覚、妄想、興奮、錯乱、譫妄・悪性症候群 <b>その他</b> 傾眠、ジスキネジア・悪心、便秘・適用部位紅斑、適用部位そう痒感		

## 後発医薬品採用通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
<p>●<u>2月4日より</u></p> <p>アトルバスタチン錠 10mg「EE」</p> <p>アンプロキソール塩酸塩徐放 OD 錠 45mg「ZE」</p> <p>ウルソデオキシコール酸錠 50mg・100mg「テバ」</p> <p>エベリゾン塩酸塩錠 50mg「トーワ」</p> <p>セフカペンピボキシル塩酸塩錠 75mg「日医工」</p>	<p>リピトール錠 10mg</p> <p>ムコソルバン L 錠 45mg</p> <p>ウルソ錠 50mg・100mg</p> <p>ミオナール錠 50mg</p> <p>フロモックス錠 75mg</p>

## 販売名変更に伴う医薬品変更通知

変更後	変更前
<p>●<u>在庫消尽後</u></p> <p>アシクロビル DS80%「NK」</p>	<p>アストリックドライシロップ 80%</p>

## 剤形薬品採用通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
<p>● <u>2月4日より</u></p> <p>テリボン皮下注 28.2<math>\mu</math>g オートインジェクター</p>	<p>テリボン皮下注 56.5<math>\mu</math>g</p>

## 適応追加通知

<p>フィコンパ錠</p>	<p>【効能・効果】</p> <p>○てんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む)</p> <p>○他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法</p> <p>【用法・用量】</p> <p>〈部分発作(二次性全般化発作を含む)に用いる場合〉</p> <p>[単剤療法]</p> <p>通常、成人及び4歳以上の小児にはペランパネルとして1日1回2mgの就寝前経口投与より開始し、その後2週間以上の間隔をあけて2mgずつ漸増する。維持用量は1日1回4~8mgとする。なお、症状により2週間以上の間隔をあけて2mg以下ずつ適宜増減するが、1日最高8mgまでとする。</p> <p>[併用療法]</p> <p>通常、成人及び12歳以上の小児にはペランパネルとして1日1回2mgの就寝前経口投与より開始し、その後1週間以上の間隔をあけて2mgずつ漸増する。本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない場合の維持用量は1日1回4~8mg、併用する場合の維持用量は1日1回8~12mgとする。なお、症状により1週間以上の間隔をあけて2mg以下ずつ適宜増減するが、1日最高12mgまでとする。</p> <p>通常、4歳以上12歳未満の小児にはペランパネルとして1日1回2mgの就寝前経口投与より開始し、その後2週間以上の間隔をあけて2mgずつ漸増する。本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない場合の維持用量は1日1回4~8mg、併用する場合の維持用量は1日1回8~12mgとする。なお、症状により2週間以上の間隔をあけて2mg以下ずつ適宜増減するが、1日最高12mgまでとする。</p> <p>〈強直間代発作に用いる場合〉</p> <p>[併用療法]</p> <p>通常、成人及び12歳以上の小児にはペランパネルとして1日1回2mgの就寝前経口投与より開始し、その後1週間以上の間隔をあけて2mgずつ漸増する。</p> <p>本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない場合の維持用量は1日1回8mg、併用する場合の維持用量は1日1回8~12mgとする。なお、症状により1週間以上の間隔をあけて2mg以下ずつ適宜増減するが、1日最高12mgまでとする。</p>
---------------	--